

結果まとめ(R6中間評価)

項目	強肯定割合平均	教職員	肯定的意見の割合	
			R6.7月	強肯定割合(%)
① 確かな学びのある学校づくり	50.5	1 学力向上プランに基づいて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による授業改善を推進している。	100	51.9
		2 児童に発表するときの姿勢や聞く姿勢を指導し、「話し合う力」の育成に取り組んでいる。	100	
		3 児童に漢字の読み書き・計算の力が付くように、研究の取組に基づいて朝自習・帯タイムで取り組ませている。	100	
		4 家庭学習の質の向上を図り、毎日きちんと取り組むよう指導している。	100	
② 温もりのある学校づくり	59.2	5 自分から、挨拶したり、返事するよう指導している。	100	69.7
		6 一人一人の児童を認め励ましなが、自己肯定感や自己有用感高める指導をしている。	100	
		7 児童が楽しく学校生活をすごせるように指導している。	100	
		8 掃除や給食当番、行事の取組では、縦割り班活動の充実が図られるように指導している。	100	
③ 健康な体を育む学校づくり	53.8	9 体育学習の工夫や体育的行事の充実などにより、児童の体力向上を図っている。	80	44.4
		10 「早寝・早起き」「朝ごはん」などの生活習慣が身に付くよう、指導している。	100	
		11 危険予測や健康的な生活等について指導し、児童自身による健康・安全管理能力の育成を図っている。	100	
④ 地域と連携した学校づくり	53.6	12 年間を通して、地域のよさ(人的・物的資源)を生かした体験的な活動を計画・実施している。	100	30.8
		13 学級便り(月2回以上)や連絡帳、電話連絡など、積極的な情報発信や交流に努めている。	86	
⑤ 力を活かす学校づくり	63.3	14 教育方針に基づき、共通理解・共通行動に努め、協力して行動している。	100	63.3
		15 校務分掌や各担当の業務を通し、課題を把握して積極的に学校経営へ参画している。	100	
		16 退校目標時刻19時とし、定時退校日(月2回以上)を意識して業務を行っている。	100	

青:強肯定の割合75%以上
赤:強肯定の割合40%未満

項目	保護者	肯定的意見の割合	
		R6.7月	強肯定割合(%)
1	1		
	2 お子さんは、学校での出来事や学んだことについて、家で話をしていますか。	96	42.7
	3 お子さんは、基礎的な学力(漢字・計算等)の力が付いていると思いますか。	80	
	4 お子さんは、家庭学習に取り組んでいますか。	100	
	5 お子さんは、自分から挨拶ができていますか。	88	
	6 学校は人間関係づくりを通して、いじめの未然防止に努めていると思いますか。	92	
	7 お子さんは 意欲的に登校していますか。	96	
	8 お子さんに家での役割(手伝い・自分の仕事)をさせていますか。	80	
9 お子さんは 家の中や外で積極的に運動をしていますか。	80		
10	10 お子さんは、「早寝・早起き」「朝ごはん」などの生活習慣が身に付いていますか。	96	44.0
	11 学校は、避難訓練などの安全指導の実施や、病気やケガの予防の取組等、安心安全な環境づくりに努めていると思いますか。	92	
12	12 学校は、地域のよさを生かした教育を推進していると思いますか。	92	78.0
	13 学校は、方針や行事、児童の様子をお便りやホームページ等で分かりやすく伝えていてと思いますか。	96	
14			
15			
16			

黄:プラス面 緑:マイナス面

項目	児童	肯定的意見の割合	
		R6.7月	強肯定割合(%)
1	1 友だちとの話し合いで、自分の考えを深めることができている。	96	57.0
	2 自分の考えが友だちに伝わるように発表している。	100	
	3 学習した漢字が書けたり、計算ができたりする。	76	
	4 宿題を必ずしている。	92	
5	5 人に(大人や子ども)、自分からあいさつをしている。	96	60.0
	6 困っていることがあったら、先生などに相談している。(相談しようと思う。)	88	
	7 学校は楽しい。	92	
	8 自分から、すすんで掃除や係の仕事、(行事の運営)をしている。	96	
9	9 体育等でみんなと一緒に体を動かしている。	96	73
	10 早ね・早おきの時間や朝ごはんを大切に生活している。	100	
	11 安全に避難する方法がわかったり、病気やけがの予防をして安全に生活したりしている。	92	
12	12 自分たちが住んでいる地域の学習に興味がある。	84	52
	13		
14			
15			
16			

結果・分析
○項目2「話すこと」について、教職員・保護者・児童ともに肯定的意見の割合が高い。学校研究で取り組んでいることが話す意欲や、相手に伝わる話し方の能力の向上につながっていることが考えられる。 ▲5つの柱の中で、①の強肯定が一番低い。児童自身が「できるようになった」と自信がもてる、良い結果がでるように学力向上に向けての具体的な取組を計画し、児童や保護者に伝え、継続して組織的に行っていく。
○項目7について、教職員・保護者・児童ともに、肯定的に捉えている割合が高い。 ▲②の柱について保護者の強肯定の割合がやや低い。特に人間関係づくりやいじめの未然防止や対応など、心のケアにも留意しながら1人1人の対応を丁寧に行っていく。
○項目10で、昨年度重点的に取組を行った結果、教職員・保護者・児童の肯定の割合が高くなっている。 ○項目11で、安全に関する指導・取組について肯定的割合が高い。今後も継続して、命を大切にするための指導を行う。 ▲体力の向上に向けて、学校で家でも運動をするような声かけなどをしていく。
○地域学習について、地域・保護者との連携を今後も図っていくために、地域学習や交流を積極的に行っていく。 ▲さらに興味関心を高めるために、地域や家庭に関連するお便りを出す。
○どの項目も100%である。 ▲強肯定をアップさせるために、業務の効率化を図る。

結果・分析
○④の柱以外の項目も肯定的な回答の割合が高い。
○②温もりのある学校づくりでは、強肯定の割合が柱の中では最も高く、児童同士のつながりや心地良い雰囲気をつくる指導を意識している。
▲④「地域と連携した学校づくり」では、定期的・計画的に学級通信などで情報発信を行っていく。また、震災の影響で今までの地域学習が困難なことが考えられるので、状況に応じた内容に変換していく。
▲③「健康な体を育む学校作り」の「体力向上」について、震災の影響で体育館や運動場が使えなかったという現状もあり、体力を高める運動に取り組むことが難しかった。

○学校の取組に対して肯定的な回答の割合が高い。
○項目4「家庭学習」は100%で、忘れずに行う・自主的に行うという意識が高くなっている。
○④地域と連携した学校づくりでは、強肯定の割合が高い。
▲項目8「お手伝い」については、震災の影響で、家庭環境・住居環境も変化していることが考えられる。蛸島小ファミリーデーの取組を今後も継続し、家族の一員として役割をもつ・家族のために行動することについての働きかけをする。
▲項目9「運動」について、2学期以降は積極的に体育館を活用し家でも出来る運動を伝えるようにする。

○項目2「伝わるように発表」や項目10「早寝早起き朝ごはん」では100%で、全校児童が肯定的に捉えている。この2つは昨年度から重点事項として研究や保護者との連携で取り組んできた内容であり、成果が出たと捉えることができる。
○項目3「学習した漢字や計算ができる」が約76%の肯定的な回答であった以外は、どの項目も割合が高い。
▲項目3「学習した漢字や計算ができる」では、自信がない、分からない、と捉えている児童が一定数いるので、基礎基本の力が身につくような取組を行っていく。